

URBAN
DESIGN
CENTER
OMIYA

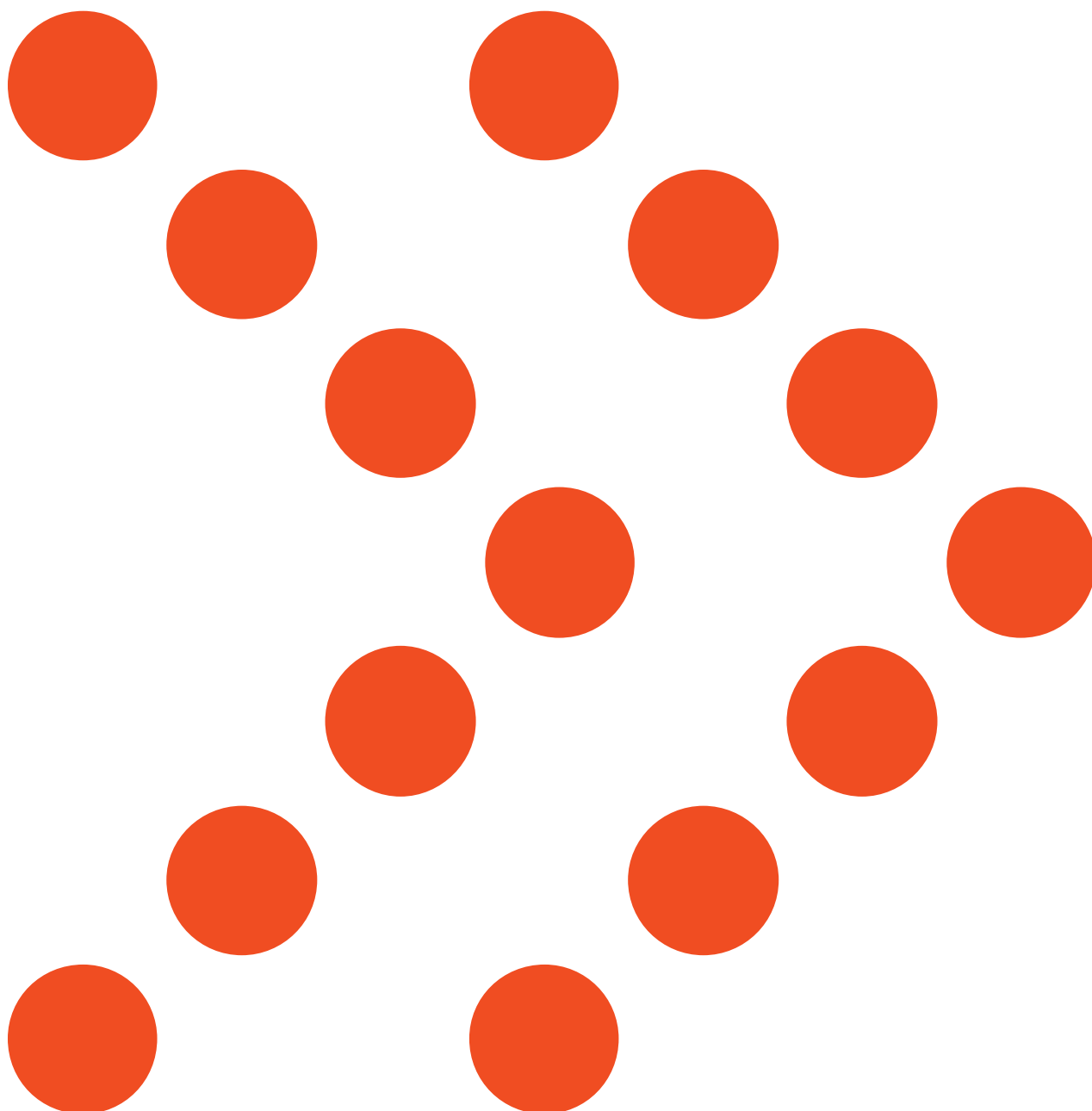
大宮の魅力—多彩な「ひと」—「UDCO
PAPER—ひとを紡ぐ」では大宮の「ひ
と」にスポットライトを当て応援していくな
どにも、広くその魅力を発信していきます。

UDCO
PAPER

ひとを紡ぐ

大宮の魅力—多彩な「ひと」— | ◎大宮といえば、商都であること
や交通結節点であること、また、氷川神社や氷川参道、見沼田
んぼといった豊かな自然や、歴史、文化を感じることができる街
であることを、誰もが思い浮かべると思います。◎でも、忘れて
はいけません。大宮という歴史ある街を築いてきたのは、多彩
な「ひと」であったことを。それは住民かもしれませんし、働きに
来るひとかもしれませんし、街を訪れるひとかもしれません。つ
まり、街にかかわるすべての「ひと」が大宮を形づくっているの
です。◎「UDCO PAPER—ひとを紡ぐ」は、そんな大宮の多
彩な「ひと」にスポットライトを当て応援していくとともに、広くそ
の魅力を発信していくため、今回、発行に至りました。今後も大
宮で活躍する「ひと」のインタビューを定期的に掲載していきま
す。2018年春、大宮の「ひと」が紡いでいく物語のはじまりです。

OMIYA PEOPLE



大宮区区民会議初代会長時代に
大宮二十景を制定し、現在は、
青少年育成さいたま市民会議会長や、
アートフルゆめまつり実行委員会会長、
さいたま観光国際協会理事なども務め、
長らく大宮のまちづくりに尽力している。



OMIYA
PEOPLE
No.001

久世晴雅 | 一般社団法人大宮駅東口協議会 OEC 会長

夢を発信し続ける組織へ——OECの試み

「UDCO PAPER——ひとを紡ぐ」創刊にあたり、大宮のまちづくりに尽力されてきたOECの久世晴雅会長に、大宮の街、OECの活動について伺いました。

Q OECの立ち上げの経緯についてお聞かせください。

久世 前身は大宮青年会議所です。青年会議所はまちづくりを考える団体で、若者同士で話し合いができる場でした。20-40代の仲間を中心に大宮の開発について議論をしています。他方で、青年会議所のOBたちもまちづくりについて憂っていました。駅前市街地の開発が進まない、どうにかならないのかという話が出ていました。憂いていた仲間たちが集まって話をしているうちに、組織をつくって行動を起こさなくてはいけないという機運が2009年頃に起こり始めました。

そのときに、筑波大学の黒川洸先生を中心とした「大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定委員会」がスタートしました。そこに参加するために協議会をつくろうということになりました。地権者も歳を重ねてきているので、このタイミングで何かをやらなければいけないという機運が生まれてきたということです。そこで、一緒に何かやろうということで始めたのがOECです。

街を何とかしなくてはならないと憂っている人が集まったのがOECだということです。自分の近所だけ考えるのではなく、大きく捉えたまちづくりをしなくてはならないことは、皆、感じていると思います。例えば、サッカーをまちづくりに導入したいのであれば、まずは地元のサッカーチームから育てる必要があるのではないかと、というような議論を始めています。

Q OECの活動はどのようなものでしょうか。

久世 何から始めるべきか、何が必要かを考えながらポストイットしていくうちに生まれたのが「ゴールデン・トライアングル構想」とそれを実現するための「13のまちづくり構想」です。ゴールデン・トライアングルとは、駅を中心として、大栄橋から吉敷町の交差点までの東側について考えるトライアングルですが、三角形のエリアに限定して、そのなかで何が必要かを考え始めました。

13のまちづくり構想

- 1 スポーツ都市“大宮”推進構想
- 2 北銀座再生構想
- 3 鉄道見学施設構想及び大栄橋再構築構想
- 4 大宮駅北口(氷川口)開設構想
- 5 大宮駅東口駅前再生構想
- 6 街の回遊性構想
- 7 区役所移転(行政・公共用地利用/再編)構想
- 8 南銀座再生構想
- 9 氷川参道を活かした、まちづくり構想
- 10 大宮駅東口・さいたま新都心遊歩道構想
- 11 地下利用構想
- 12 シンボル施設構想
- 13 大使館村構想

月に1度、自分が住んでいる場所の周辺について話し合いを

始めたのが例会の始まりです。自分たちが参加して意見を出したいと考えている人はたくさんいて、その人たちがいまはOECの役員や会員になっています。

OECの例会は100回を数えます。素晴らしいのは毎月休まずに続けてきたことです。おかげで耳学問を十分に身に付けてきていると言えると思います。だいたいこのような組織

夢を発信することは必要



ゴールデントライアングル構想

は途中で活動が途切れるものですが、OECは事務所を持っていて、その場所に常勤の人がいることが強みです。

Q OECの今後について教えてください。

久世 たとえば「13のまちづくり構想」も、10年経ってみるとだいたい具体化されてきたように思います。これは市民と行政とのコミュニケーションがスムーズになったからこそです。それぞれが意見ばかりを言っていたら何も動きませんが、なんとか橋渡しをしてきた結果がいまのOECにつながっていると思います。

OECはいろいろな意見を吸い上げてまとめてあげる組織でいいのだと思います。夢を発信することは必要だと思います。「このような構想にしてほしい」というところまでを伝えるのがOECの役割ではないかとも言っています。われわれ民間のできることは何かということです。「あそこにエスカレーターが欲しい」「エレベーターはここがいい」「モノレールはここを走ってほしい」など、そのようなことを言い続けるのがわれわれOECです。

今後は、OECの会員を増やしていくことが重要です。地権者だけではなく、まちづくりに興味がある人は誰でも来てもらって話をする。若い世代の人に来てもらうことがいいことだと思っています。また、地権者の2世たち

にも関わって欲しい。子どもの代も一緒に話を聞くとよい場をつくる必要があります。われわれの世代もいつまで続くかわからないので、次の世代にバトンを渡せるような人が必要です。

Q

大宮のオススメの場所や、これからのまちづくりについて教えてください。

久世

氷川神社を中心としたまちづくりを進めて魅力をつかっていかなければなりません。神社へお参りした帰り道にたち寄れる場所、食事をしたりできるような場所づくりをしていく必要があると思います。それから、地方の人が大宮へ来たいと思える施設をつくるべきだと思います。「鉄道博物館」や「さいたま市大宮盆栽

美術館」のような公共施設はやはり必要です。

いまは大宮図書館の跡地を何とかしようと思っています。図書館の跡地に道の駅をつつて、トイレがあって、食事ができてお茶が飲めるような場所になるといいと思います。将来的に氷川参道は歩行者天国になります。そのときに、どういう街をつくるかが重要です。神社の後ろの大宮公園にはサッカー場と野球場があります。それも含めた大宮公園構想も必要だろうと思います。大宮公園は昔から日本の文豪たちが訪れていた場所です。滞在して作品を書いていました。それだけ落ち着いた



見沼田んぼ

お互いに学び合えることが官民学の関係としては理想の形

街だったのでしょう。

私個人としては、「見沼田んぼ」が大好きです。市長が進めている見沼の桜街道の計画は絶対に実現するべきです。

Q UDCOへの期待はありますか。

久世 そうですね、UDCOに期待することといえば、われわれ民間が提出したいろいろな事柄について、その夢を実現してくださいということだと思います。あとは、私たちにいろいろなことを教えてください、ということではないでしょうか。

Q UDCOとしても、OECから教えてもらいたいことがたくさんあります。学び合いですね。

久世 お互いに学び合えることが官民学の関係としては理想の形ではないでしょうか。

UDCO PAPER #001——ひとを紡ぐ

2018年5月24日発行

編集・発行：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

編集協力：和田隆介

デザイン：刈谷悠三・角田奈央/neucitora

問合せ先：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町一丁目60番地

大宮ラクーナ8F まちラボおおみや内

TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680

©2018 UDCO All Rights Reserved



氷川参道